

## 編集後記

2011年3月11日から5年が経ちます。災害からの年月に、節目と言われる時があるのでしょうか。あの東日本大震災や東京電力福島第1原子力発電所事故の記憶が風化しないようにと警鐘が鳴らされています。忘れたようになることは怖いことです。

この時期は、毎年雪について思いを巡らします。今冬、北海道は例年になく積雪が少ない日々でしたが、2月29日から3月1日にかけて数年に一度の暴風雪に見舞われました。亡くなった方も出た大きな被害を受けました。新千歳空港でも雪による大規模な欠航が発生しました。そんな季節がめぐる山々の積雪も春を待っています。

今回の資料集では、長年の懸案であった美瑛富士避難小屋トイレ問題について、携帯トイレシステム導入試行を開始した報告ができました。この仕組みは行政（環境省、道、森林管理局、地元自治体等）と山岳登山関係者が協力、協働して実行したものです。山岳環境問題についての協働は本州にも先進事例があり、その活動を東北地方の飯豊・朝日連峰の皆さん、東北の磐梯山の皆さん、四国 愛媛県石鎚山の皆さんから寄稿して頂きました。北海道の夕張岳ヒュッテとユウパニコザクラの会の皆さんの活動、アポイ岳とアポイ岳ファンクラブ、様似町等の皆さんの活動もあります。

また、継続は力なり。利尻山のこの1年を利尻山山岳年報として今年もお知らせ頂きました。ご苦勞が続く黒岳バイオトイレの運用状況をお知らせ頂いていることも頭が下がります。大雪山国立公園パークボランティアの皆さんの活動も素晴らしいことです。大雪山系の登山者数の経年変化は今年もお届けできました。

屋久島の山岳トイレは土壌処理方式です。不調が続いていたようですが何とか役割を發揮できそうです。同じ方式の羊蹄山でも注目しています。

日高・幌尻岳の山岳環境問題と世界遺産・富士山については貴重な提言を頂いています。

北海道や全国のいろいろな山域での情報や皆さんの活動の様子を紹介し続けることは、私達の役割となり、活動の励みとなっています。本資料集に寄稿頂きました皆様、お忙しいなか本当にありがとうございました。深く感謝申し上げます。

この17回目の資料集を、例年通り皆様のお手元に届けることが出来る喜びと共に、少しでもお役にたてるようにと願っています。

(小枝 正人)

禁複製